

あなたのご家族（兄弟・姉妹・父母・祖父母）に八中の卒業生がいたら見せて下さい。

変わる社会 手動から自動へ 戦後からまだ80年足らず、人類の歴史から見たらほんの一瞬である。しかし、この期間の文明の変化は著しく、絵空事のような世界へと一変した。従来、手動（手作業・手作り）していたものの大半は、とりあえず半自動と化した。そしてしかる後に、自動或いは全自動へと大きく舵を切ることとなって行く。

この手動から自動になることの変化は、始動から結果までのプロセスが失われることである。これによりこのプロセスは、ブラックゾーンとなる。このブラックゾーンとは、川端康成ではないが、正しく「トンネルを抜けると雪国だった」の世界である。つまり、トンネルの入口が始動であり、結果が雪国なのである。トンネルの中でどうなっているのか分からない世界でもある。

こんな社会変化の中で、自動社会から手動社会への「回帰現象」が生じている。「Z世代」（25歳以下の人たちの間での「昭和ブーム」だ。アナログからデジタルに変化した中での、アナログの見直しや再発見である。そこにはプロセスがあり、デジタルで育った彼らには目新しいものに映っているのかも知れない。そして、このプロセスを体験することの面白さの発見でもあろう。

その1つがレコードの復活である。ユーチューブで選択して音楽を聞くという単純さに比べ、レコードでは、まずレコード盤を買いに行き、盤に針を落として聞く。そして、そのレコードにはジャケットがあり、見たり飾ったり、収集したりする楽しみまで付いてくる。面倒以上の楽しみがある。

またコロナ禍でのテレワークの増加は、仕事の見直しの結果「ブルシットジョブ」（クソどうでもいい仕事）への気付きとなり、手動社会の田舎や地方への移住現象を生み出した。このブルシットジョブというのは、簡単に言えば社会や人の為になっていない仕事をしてきたことへの反省でもあり、もっと社会貢献をしたいという機運を動かした。

地方や田舎暮らしの中で、仕事もするが地域社会に溶け込み、地域社会行事への積極的参加もする。手動社会は自動社会と違い、昔ながらの年配者に教を請わなければならない社会でもある。テレビ番組の「人生の楽園」や「いいいじゅう」は、地方や地域の人々との交流がなければ成り立たないし、年配者はキャリアのある師匠として輝いている。これは便利社会の中で「不便を楽しむ」ことかも。

常盤町

常盤というのはトコイワといい、常に変わらぬ石の意味。常盤木は松、杉緑葉を保つという浜松の「松」の連想で、永久に栄え発展を願い名をつける。

常盤の凧は、色々と表現を工夫し、現在の輪続きに「ト」と図案化した。

常盤には、三立製菓や遠州病院があったところでした。その後、三立製菓は移転し、遠州病院も現在地に移転した。また新川沿いには染物工場など「糸へん」の工場が点在していた。

現在は遠州鉄道の高架に伴い、その周辺も様々に変化していった。

■右側の写真は、常盤町の屋台です。

常盤町 人口

世帯数574 男489 女465合計 954
2023年2月1日現在



「同窓会だより」掲載記事募集

八幡中学校同窓会事務局 代表 白井 鉄男
連絡先：〒430-0928

浜松市中区板屋町612-402

FAX:(053)489-6391

ironman29@hotmail.co.jp

「同窓会だより」は、八幡中学ホームページトップの「特色ある活動」から入ると、スマホやパソコンからでも見られます。皆様の友人や同級生にも教えてあげて下さい。「同窓会だより」は毎月発行。